

# 府中市教育委員会会議録

## 1 開会の日時

令和7年10月28日（火） 教育センター 会議室  
（令和7年第12回） 15時00分 開会

## 2 出席委員

杉本教育長、高橋委員、藤井委員、森山委員、眞野委員（5人）

## 3 委員以外の出席者

宮田教育部長 和田教育政策課長  
津田学校教育課長 道田教育政策課文化財室長  
山田教育政策課主幹 児玉教育政策課教育推進係長

## 4 会議に付した議案の題名

第39号 府中市学校給食センター運営協議会委員の任命について  
第40号 学校の再配置（府中市立上下北小学校及び府中市立上下南小学校）  
について

## 5 審議の概要並びに結果の概要

議案2件について審議を行い、同意の議決を得た。

## 6 議決事項

議案39号 可決  
議案40号 可決

## 7 協議事項

## 8 報告事項

### （1）杉本教育長

- ・広島県都市教育長会秋の総会について
- ・教員の働き方改革について
- ・第15回府中学びフェスタについて

### （2）教育部長

- ・上下小中学校区学校再配置について

(3) 教育政策課

- ・第15回府中学びフェスタについて
- ・秋の資料館フェスタ（11/15）について
- ・文化財ガバメントクラウドファンディングについて

(4) 学校教育課

- ・令和7年度ALTの配置について
- ・学校の状況等について  
令和7年度生徒指導上の諸問題  
令和7年11月行事予定
- ・府中市CSフォーラム2025について

9 連絡事項

次回は 11月19日（水）午後1時～

次々回予定は 12月23日（火）午後1時30分～

16時20分 終了

会議録署名者 委員

委員

書記

## 教育委員会会議（12回）

- 教育長 令和7年第12回教育委員会会議を開会いたします。  
本日は、眞野順子委員が第1回目の教育委員会会議への御出席ということになります。一言御挨拶をいただければと思います。
- 眞野委員 皆様、初めまして。新登用の眞野と申します。まだ何も分かりませんので、お手柔らかに教えていただければと存じます。
- 教育長 会議録署名の指名をいたします。藤井委員と眞野委員の2名の方をお願いをいたします。  
それでは、会議録の承認に入ります。前回の会議について、事務局の報告を求めます。
- 児玉係長 それでは、令和7年第11回会議について、御報告いたします。  
第11回会議は、令和7年8月21日、木曜日、午後1時30分から、教育センター会議室において、杉本教育長、高橋委員、藤井委員、森山委員と、宮田教育部長ほか事務局5名の出席で開会いたしました。会議の冒頭で、議案7件のうち議案第37号「府中市文化財保護審議委員会委員の委嘱について」及び議案第38号「令和8年度使用教科用図書のうち特別支援学級において使用する教科用図書の採択について」は、公開・非公開の取扱いを確認し、委員全員の同意により、非公開で行うことに決しました。  
そのほかの議案は5件で、条例の一部改正に関するものが2件、決算認定に関するものが1件、補正予算に関するものが1件、規則の一部改正が1件でした。  
第32号「府中市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正について」、議案第33号「府中市職員の育児休業等に関する条例の一部改正について」、議案第34号「令和6年度府中市一般会計決算認定について」、議案第35号「令和7年度府中市一般会計補正予算（第2号）について」、議案第36号「府中市教育委員会外国青年就業規則の一部改正について」、これらの内容説明、協議を行い、可決いたしました。  
協議事項については、ありませんでした。  
報告事項として、教育長から初任者研修、教員の働き方改革について、教育部長からは上下地域小中学校の在り方について、教育政策課からは第15回府中学びフェスタ、令和7年度府中市歴史資料館運営審議会会議、第2回府中市翁座改修専門委員会会議及びサテライト国府展、

スポット国府展、第26回ふちゅう歴史フォーラムについて、学校教育課からは学校の状況及び部活動の大会結果について、それぞれ報告がありました。

次に、連絡事項として、次回開催日日程を確認しました。

続いて、非公開で、議案第37号「府中市文化財保護審議委員会委員の委嘱について」及び議案第38号「令和8年度使用教科用図書のうち特別支援学級において使用する教科用図書の採択について」内容説明、協議を行い、可決し、会議の全てを15時45分に終了いたしました。

以上です。

教育長 ただいまの会議録につきまして、御異議等ございませんでしょうか。

(異議なしの声)

教育長 ただいまの会議録につきましては、原案どおり承認をいたします。それでは、本日の議案に移ります。本日の議案は2件で、委員の任命に関わるものが1件、学校の再配置に関わるものが1件でございます。議案に入る前に、ここで会議の公開・非公開について、お諮りをしたいと思います。

本日の議題、第39号「府中市学校給食センター運営協議会委員の任命について」は、人事に関する事案であり、非公開が適当であると考えますけれども、いかがでしょうか。非公開とすることに賛成の方は挙手をお願いできればと思います。

(賛成者挙手)

教育長 ありがとうございます。挙手全員でございますので、出席委員の3分の2以上の同意を得たということで、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、第14条第7号の規定により、協議事項は非公開とすることといたします。

本日の会議は、議案第40号の審議をした後、協議事項、報告事項及び連絡事項を行いまして、その後、議案第39号について、非公開で行うこととします。

それでは、議事に入ります。

議案第40号「学校の再配置（府中市立上下北小学校及び府中市立上下南小学校）について」、提案説明をお願いします。

和田課長。

和田課長 それでは、議案第40号「学校の再配置について」説明をさせていただきます。

府中市立上下南小学校を廃止しまして、府中市立上下北小学校へ再配置することについて、府中市教育委員会教育長に対する事務委任規則の第1条第2項の規定によりまして、教育委員会の議決を求めるものでございます。

児童数の減少等によりまして、府中市立上下南小学校を廃止しまして、府中市立上下北小学校に再配置することについて教育委員会の議決を得る内容になっております。

学校再配置の時期につきましては、令和9年度4月1日を考えております。

まず、取組の経過でございます。令和6年10月3日に保護者代表、及び府中市町内会連合会北部町内会から連名で、学校再配置に関する要望書の提出がございました。それを受けまして、1月それから7月・8月・9月・10月と、保護者代表、学校運営協議会委員、北部町内会長を対象にしまして説明会を重ね、協議を進めたところでございます。以後、保護者全体、そして地域住民に対しまして意見交換や説明会を設けながら、在り方について協議を行ってきたところでございます。そのような経緯を経て、複式学級の解消を図ることなどを目指しまして、小学校2校の早急な再配置を行うことについて、保護者及び地域住民と合意形成を図ることができた、そういった取組の経過を示させていただきます。

今後の取組についてですけれども、上下南小学校の通学区域を上下北小学校の区域に含めることをはじめ、令和9年4月1日の開校に向けまして、学識経験者、保護者代表、地域代表、各学校長等で構成します「上下中学校区学校再配置推進委員会」を設置しまして、新しい学校づくりに向けた協議を開始する予定となっております。

また、児童が安心して新たな学校生活を送れるように、令和8年に交流事業も実施しながら、令和9年度を迎えていくということで、今後の取組を進めていく予定となっております。

3番になりますけれども、今後のスケジュールでございます。先ほど申し上げた上下中学校区の学校再配置推進委員会の第1回目を、11月21日に開催する予定となっております。12月には、それに関わる議案を議会に提出する予定で条例改正を諮りまして、1月以降に委員会を含めて部会等を開催する予定としております。そういった部会・

委員会を開催しながら、新たな学校に関する協議を進めていくというスケジュールになっております。

議案第40号につきましては、以上でございます。

教育長

ただいまの説明につきまして、御質問等ございますでしょうか。

これまでも途中経過については逐一お話をさせていただいてきたと思いますが、いよいよ12月議会に提案をしていくということになります。

藤井委員。

藤井委員

具体的には、これから決まったら話を進めていくんでしょうけども、形としては、上下北小学校に上下南小学校が行くという形での再配置ということですよ。

教育長

当初から再配置という言い方をしております、上下北小学校と上下南小学校それぞれでつくってきた文化とか、そのカリキュラムがありますので、それをどうやって融合再編させていくかというのは今からこういった委員会で考えていくということになりますので、形は最終的には上下学園といいますか、義務教育学校を見据えた形で進めていくんですけれども、まずはそのステップとして、上下北小学校と上下南小学校を一緒にやってみましょう、その中で、学校の場所は上下北小学校にしましょうという合意です。教育内容は両校のものをどう合わせながらつくっていくかという方針を立てて取り組むこととしております。保護者の意向としても早くやってほしいと。複式学級も来年度から上下北小学校でも始まるというところは見えておりますので、そういう保護者の要望を受けまして、まずは上下北小学校の敷地に上下南小学校の子どもたちも通って、一緒に学校をつくっていくという段階です。ただ、条例上は上下北小学校ということになりますので、見え方としては、藤井委員がおっしゃったとおり、上下北小学校の場所に上下南小学校を廃止して子どもが通っていくということになると思います。

藤井委員

その校名はどうなるのかなとか、校旗はどうなるのかしらとか、通っている方からすれば、校歌はどうなるのだろうかとか、それぞれにみんなあるわけですがけれども、でもこれは先ではまたさらに上下学園になるという見通しがあるということになれば、見え方としては教育長の説明のような感じになるのかなと思ったり、保護者とか地域の人から見たら、そういうところが気になるところでもあるのかなと思って

聞いてみました。

教育長 そこも保護者代表と議論をしてきたところですよ。そのうえで、やっぱり急いでいきたいという意見です。藤井委員が抱かれた懸念について議論をずっと突き詰めてしまうとおそらく1、2年が過ぎてしまうという心配があり、保護者としても、それは一番困ることだという意向がありましたので、我々としても保護者の意向を最優先に、なおかつ将来のその上下学園の姿を一緒につくっていきましょうということで、まずは令和9年4月1日ということ考えていますので、ここで終わるわけでもなくて、引き続き地域の方、それから子どもを含めて、そして保護者の意向も酌みながら、ずっと教育内容をつくっていくという流れになっていくと思います。

宮田部長、何かありますか。

宮田部長 藤井委員のご指摘はもっともなことで、このあたりの事情は教育長が言われたとおり、上下北小学校へ上下南小学校の児童が移るという形になっていきますが、上下北小学校という校名は残るんですけど、2つの学校を1つにして新しい学校をつくるといった点について、これから開校の準備をしていく推進委員会の中でじっくりと協議をしようというふうに思っています。それが次の上下学園へのつながりになると捉えております。したがって、制服等々も、今使用しているものをそのまま使って学校生活を送るところは変わりはないし、新しく入ってくる子は上下北小学校のものを使っていくというふうになろうかと思えます。

教育長 ですから上下南小学校の子どもたちが上下北小学校の制服を買うということもないということですね。

教育長 そのほかよろしいでしょうか。

それでは採決をいたします。

原案に賛成の委員は挙手をお願いします。

(賛成者挙手)

教育長 ありがとうございます。全員賛成ということで、本議案は原案のとおり可決をいたしました。

続いて、協議事項に入ります。

皆さんから協議事項について、何かございますでしょうか。

それでは、事務局のほうから協議事項について、お願いします。

和田課長。

和田課長

協議事項としまして、11月19日、総合教育会議を予定しております。その内容について、教育委員の皆様と市長の意見交換の場があります。意見交換のために必要な資料やデータを事務局として整えたいと思いますので、その旨の御意見をいただければと考えているところです。

まず、趣旨でございます。今少子高齢化、それから人口減少、価値観が多様化する中で、府中市教育においては、これから学校教育、社会教育の課題等、それぞれの分野がつながりを強め、裾野を広げていくということが重要と考えております。子どもたちも自ら考え、多様な他者と協働し、未来を切り拓いていく自立した力をつける学びでありますとか、将来にわたって教養等を高め、学びを通じて地域や社会の形成に参画し、地域全体へとそれが循環していく、そういった学びづくりを進めていく必要があるというふうに考えているところです。そして、その学びづくりが今の学校教育、それから社会教育、文化財それぞれの分野の課題を解決するために、これから取り組むべきものにもつながっていくのではないかと考えています。

それではまず、現状の課題、これから取り組んでいこうと考えていることを事務局から説明させていただきます。

教育長

津田課長。

津田課長

では、学校教育のほうから説明させていただきます。

1つ目は、小中一貫教育とコミュニティ・スクールの一体的推進です。これまでも府中市の教育施策として縦軸の小中一貫教育、そして横軸のコミュニティ・スクール、これを一体的に推進していく取組を進めているところです。

小中一貫教育については、「ことば探究科」を府中市独自教科として、も作成しまして、現在学校で取り組んでいるところです。小中一貫教育は小学校と中学校をつなぐ制度は整っています。学校はカリキュラムの工夫や指導方法、小と中の先生の交流など取組はしていますが、今年度で言うと数学が課題として上っています。授業をお互い見たり、協議をしたりしていますが、小学校と中学校の算数・数学のカリキュラムを今後どのようにしていくかなどまだまだ工夫をしていく余地はあります。

コミュニティ・スクールにつきましては、何のためにやっているのか。

これは小中一貫教育も重なるところがありますが、今年度、原点回帰と子ども主体というテーマでコミュニティ・スクールを実施しているところです。コミュニティ・スクールにつきましても、スタートしたメンバーが入れ替わる中で、教職員の異動あり、何のためにこれを行っているのかというところをいま一度考えていく、そうした上で未来につなげていくために、今までは子どもたちのために大人が協力して活動していたのですが、子どもたちも、地域のために何ができるのかを考える必要があります。また、子ども主体ということで、これは今年度テーマとして全ての学校で取り組んでいるところですが、こういったところも改めて課題等を整理して進めていく必要があると考えております。

2つ目の、子どもたちの対応や支援が必要な児童生徒の増加による体制の充実についてです。

こちらは、府中市だけでなく全国的な課題にもなっているのですが、不登校児童生徒数が増加しているところもありますので、不登校につきましても昔と違って、子どもたちの状況や背景もすごく多様化しております。そういった中で、学校でもそれぞれ取組は進めているのですが、やはりなかなか数としては減っていない状況がありますので、子どもたちにどういったアプローチをして、どういった教育を届けるかという視点が重要です。それから特別支援教育の支援が必要な児童生徒も増えてきております。現状、特別支援学級も増えてきておりますので、そういったところについても、一人一人に合った個別最適な学びと主体的な学びを届けていく必要があると考えております。

学力につきましても、令和7年度の学力調査ですと、小学校は全国平均を上回る状況です。中学校は国語、数学、理科全て全国平均を下回っている状況です。令和6年度につきましても、小学校において国語は上回り、算数は全国平均を下回っている状況。中学校は国語・数学とも全国平均を上回っている状況ということで、毎年学年によって差は出ていますが、どの学年においても、毎年全国平均を上回っていくことを目標とし、**授業改善**であったり、指導方法の工夫、こういったところを進めていかないといけないと考えております。

また、落ち着かない子どもたちの対応というところにつきましても、学校によって差もあるのですが、子どもたちが落ち着いて安心安全な学校生活を送れるような手だてを学校と共につくっていく必要があると考えております。

学校教育課からは以上です。

教育長

和田課長。

和田課長

続いて、教育政策課です。多様な世代が集い、学び合い、いきいきと活動できる環境づくりというところで、今少しずつ考えているところになりますけれども、市民と共につくる生涯学習大学、仮称ですけども、この構想を今打ち出しているところでございます。

教育政策課としましては、社会教育のこれからのいろいろな学びの充実、そういったところに方向性を持って進めていきたいというところを説明させていただきたいと思っております。

先ほどお話しした生涯学習大学構想をとということで、どういうイメージかということですが、まず今人生100年時代と言われている中で、学校教育課では小中一貫教育と、それからコミュニティ・スクールの一体的な推進を実施してきている。そして学校教育の施策が展開してきた学びの協働性であったり、それから多様性であったりといったところを次の社会教育事業に結びつけていくと、そういったことが生涯学習の振興に必要ではないかというふうに考えているところでございます。

そこで、社会教育の今の課題としましては、やはり公民館等の社会教育施設の利用者は固定化し、若年層や子育て世代の学習の機会が少ないという課題、そして地域課題を解決するような、学びの機会の形成がまだされてない側面が見受けられます。さらに学校教育を修了したその後、学びの場をつなげる機会が少ないのではないか。そういったことを取組課題ということで整理したところです。

この課題に向き合うために、行政のほうが開校して市民が受講するといった形ではなくて、市民と共につくる、そういった生涯学習をコンセプトに生涯学習大学の構想というところを今考えているところでございます。市民の学習のニーズに対応して、自発的な学習を支援することを通じて、自己の生きがいであったり、学びがい、そういったものを推進しながら生涯学習の学び手、それからこれからの市を担っていく、そういった人材を育成するといったことも含めまして、全ての世代が生涯にわたって学び続けられる環境づくりというものを目指していきたいというふうに考えています。そういった思いを持って、生涯学習大学構想を立ち上げて、生涯学習を進めていきたいと考えております。

教育長

道田室長。

道田室長 文化財室からは、文化財の保存と活用を通じた人材育成と地域の創出というところで掲げさせていただきました。

文化財室の業務、具体というよりも、むしろ方向性であったり、視点というところに重きを置いて、その課題をこれから述べさせていただきたいと思っています。

文化財室の業務というのは、根拠法令としまして文化財保護法がございまして、そこに提示されているのがこのテーマとして挙げている前半の文化財の保存と活用という部分です。保存と活用によって文化財の保護が可能となるというところで、教育部の業務として文化財室の業務を**展開**するということで、それが後段の人材育成と地域の創出につながれば良いというところを課題として考えているため、こういう課題をテーマとさせていただきました。といいますのも、どうしても文化財室の業務というのが一般的に言うと、おそらくごく一部の、**例えば私もそうですけれども、物好きであったり歴史好きであったり、結構専門性が高い業務であるがゆえに、なかなかその業務自体が理解されていなかったり、敷居が高いみたいなスクリーンがかかっていたりするものと捉えています。何のために文化財を保護しなければならないかというところを行政軸としていかに位置づけていけるかというところか**と思います。ひいてはそれが、いかに市民の皆様にとって御理解いただけるかというところが大きな課題になっていくのかなと思っています。決して過去の古い事や物に対して公共事業として財源を投入するというものではなくて、それはひいてはこういう啓発活動を繰り返すことによって、現在生きている私たちの事、つまり背景であったり地域性であったり、府中市民にとって、こういう特性や財産なのだという、オリジナリティであるというところの理解に紐づけるようなことをしていかなければならないのかなと考えています。

つまり、これを教育して学習するということと、それが文化財室が教育部にあって、それが可能であるというところで、学校教育であったりとか生涯学習の分野ともそれを連動しながら、この文化財室の業務が展開していくということが必要であると考えているところです。

以上です。

教育長 和田課長。

和田課長 学校教育、社会教育、文化財と教育部の様々な分野から現在の課題、これからの展望、そういったところの現状の課題意識について説明させていただきました。

御意見等よろしくお願ひいたします。

以上でございます。

教育長 総合教育会議の話題として委員の皆様から、市長と意見交換したい、そのための資料等が必要ということも含めて御提案いただければという趣旨でございます。いかがでしょうか。

森山委員、何かございますか。

森山委員 興味がある内容を少し上げさせていただくと、いわゆるICT環境の整備はされていると。GIGAスクール構想で2020年でしたか、府中市は割と早く1人1台端末を導入して、それから5年たって、これから順次更新とかそういうふうな時期になってくると思いますが、その端末の選定だとか、あとは府中市が他の市町と違って、いわゆるモバイルネットワークを入れていて、その端末を外でもネットワークでつなぐことができるというのがあったと思いますが、それとかがどのように使われて、どうなったのかという検証と、あと、この先やっぱりそのGIGAスクール構想の中でもタブレット端末をいち早く導入したというのがある中で、そういう環境というのになっているのかなという問いがあります。ほかの市町よりもいい環境を整えていくというふうにしたときに、どういうふうに市として考えていくか。もちろん教育委員会もそうですけれども、どういうふうな方向性で行くのかというのを考えておく必要があるのかなというふうに興味があります。

教育長 ありがとうございます。

今、森山委員からご意見いただいた更新機器の導入については、一つの方向性として、国が全体をその県がまとめて調達をして金額を落とすようにという動きがございまして、少し標準化していくのかなというのが一つの方向性です。とは言いながら、いち早く入れて、いろんな検証をする中で、府中市としてやっぱり何をしていくかというのは考えていかないといけないというふうに思っておりますので、ぜひ一つの参考にさせていただいて議論ができればというふうに思います。ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。

眞野委員、お願いします。

眞野委員 今、和田課長がおっしゃっていた多様な世代が集い学び合ういきいきと活動できる環境づくりというところで、私以前、名古屋市におりましたときに、子どもを産んで6か月から、生涯学習センターというの

が各行政区に1つずつありまして、その中の講座の、いろんなできる講座をいろいろ取っていました。内容としては、万葉集を学ぶ会、あとちょっとまちゼミみたいな感じすけど、その寄合の方に来てもらってワインの御紹介とか、ありとあらゆる業種の方をお願いしたり、あと、なわ細工の講師の方に来てもらって勉強会を開いたり、週1回ぐらいで忙しかったですが、それに行っているときに物すごく楽しくて、子どもを産みながらでも、そうやってちゃんとしたスペシャリストの先生方に学びを乞うことができるというのは物すごく孤独感が払拭できて、私はすごくそれに感動してありがたくて、府中市に来たときにそんなのではないのですかと聞いたら、そんなものはありませんと言われて、すごくショックで、そのすぐにまた社会教育委員をさせていただいたときに、老人大学という言い方もちょっとおかしいと思いました。せめて高齢者大学とか生涯大学とか、いやいそうじゃなくてももう老成で馴染んでいるからいいとか、すごく悲しかったそのときの思いが今蘇ってきますが、なかなか予算的にも学ぶ**と**きの**た**めに**各**自を調節するというのは、かなり難しいとは思いますが、本当にそれで救われる人がいたら本当にいい社会になるなど。それは自分が若い中で参加しましたが、中には大学生がいたり、もうリタイアされているけれども学びたいという高齢者の方がいたりして、すごく年齢層にも幅があって、本当にいろんなスクールがあったのが今考えれば夢のようだったなという思いがございます。

教育長 ありがとうございます。今の話は、まさに生涯学習大学のさっき言った構想に非常につながるものだというふうに思いますので、ぜひ全体の議論の一つにさせていただければと思います。

藤井委員が4時までということなので、何かございますか。

藤井委員 すみません。私が最初に思うのは、スマイル教室で、週に2、3回勤めさせていただいて、不登校という子どもたちのその状況や、なぜ学校へ行かないのかというような理由なんかも、本人たちもよく分からないというか、ただ明らかに昔とは違ってきているという感じはすごくします。全く昔だったら友達関係がうまくいかなかったから学校行けないようになりましてとか、比較的分かちあえる部分があったように感じていますが、何だか分からないけど行けないみたいな印象が増えています。

だけど、たくさんいる子たちの中でほんの一部がスマイル教室に来ていますが、来ている子たちは一部ですが、でもここから高校へ進学し

て、来室した当初、高校進学は考えられないみたいな状況で来ていても、来ているうちに自信を取り戻したり、高校へ行って、その先は保育士になりたいとか調理師になるという希望を明確に意識し出して、スマイル教室で学んだ子供たちの多くが高校にはみんな元気で行っています。そういう意味で、不登校の子供たちが来室できる環境は必要だと思えます。教育に関わる人のところをできるだけ確保していただきたいというふうなことはとても思えます。

市長さんも「教育のまち府中」ということを言うてくださって、20年ぐらい前ですかね。府中の教育を普通の教育にみたいなことを言われていたときのことを考えると、市長さんが教育ということを表に出してくださるようになったというだけでも、私自身は真ただ中で教員をやってきたので、そういうことを言うてもらえるようになったのかとは思いましたが、安穩としていたのではそれは失われていくと思えます。日々学校や教育委員会も頑張らなくちゃいけないと思えます。学校は働き方改革を進めなくちゃいけないけれど、質を下げたら信頼が損なわれると思えます。そしたらやっぱり教育のまちって正面切って言えないと思えます。その辺りのところを意見交換したいと思えます。

教育長

ありがとうございます。でもお金がかかること、人が絶対要るところとありますけれども、どちらかという教育はこうあるべきだっているのは我々が話して、それは市長にもちょっと共有をしてというところはあるかと思えますね。逆に、市長から教育のまちというのが出るというのは、どういうのが教育のまちですかねというところは、一つのお互いに話をしてくところかなということだと思えます。ありがとうございます。

高橋委員、お願いします。

高橋委員

市長さんと意見交換する際の教育委員としての思いはそこが一番かなと思えます。令和7年度もかなり大幅な見直しがあって、学校教育にあまり削減を求められないで人件費的のところは削減がいきりましたが、令和8年度はもっと大幅な見直しになる可能性が大いにありますよね。そうすると、学校教育にも、そうした削減事項が生まれてくるのかなと思えます。特に、先ほどの上下地区の学校再編にしても、令和9年度からスタートということは令和8年度から準備する費用もかかるでしょうし、それから令和9年度以降にしても、スクールバスの運行とか必要な経費というのはかなり生まれていくのではないかなと思うので、その辺

のところも含めて、教育委員会の事務局も大体の必要経費を精査していただいて、これ以上はもう削れない、譲れないというところは明確にして進めていただけたほうがいいのではないかなというふうに思います。

そういったところを重点的に話題にさせていただくと、それからもう1点、昨年も総合教育会議でお話しさせていただきましたが、この府中市の先進的教育の取組についてのPRがなかなかできてないということは、市民の人も、そこまで府中市の教育、そんな先進的な取組をしているのというふうな感覚ですよ。だからいわゆる小中一貫教育が何なのか、それからコミュニティ・スクールがどういった活動をしてらっしゃるのかというのも、関わっている方は分かってらっしゃるのですが、そうでない方にとっては全く何のことかという感じで、いわゆる先進的な取組になっているのか、なっていないのかすら分からない状況。これを分かるために、しっかりその市内に向けてもPRをしていただくことが大事になってきますし、外に向けてもそうですが、行政も含めて、いろんなところでPRをいろんな角度からしていくことが必要ではないかなというふうに思います。こうしたところも含めて、予算にも反映してくることは大きく影響があるのかなと思いますので、市民の認知、認識度というのは必要になってくるのではないかなというふうに思いますので、この2つが今現在感じている話題というふうに思います。

以上です。

教育長  
教育長

ありがとうございました

それでは続いて、報告事項ということで、まず私のほうから、先日、都市教育長会の総会というのがございました。この中で各市のいろいろ苦勞している状況の共有をさせてもらったのですけれども、一つは部活動の地域展開ということで、一応各市町と体協と協力して、あそこの地域でやっているところへ行ったら部活できますよみたいなことでやろうとしているところもありますけれども、それって結局、今ほぼ**全員加入**でやっているような部活と質は確実に違いますよねというようなところで、ほんとにこれって部活動と同じだけの効果をそこで担保できるかということ、どこの市町もさすがにそこまで厳しいなというところで、これは国の動きも見つつ、本当にそれでいいのかどうかということも含めて検証していかないといけないというのが、**各市町等**思っておられるところだということでした。

先ほどの総合教育会議ですけれども、「**働き方改革に関する業務量管理健康確保措置実施計画**」と、長い名前の計画を法律でつくらないといけ

なくなっているのですけれども、11月に出せるかどうか、まだ分からないですけれども、間に合えば、つくったら総合教育会議に報告するというふうになっているものですから、そこに向けて作業を始めたいと思っております。また、もし間に合えば11月の教育委員会に報告といたしますか議題として上げさせていただければというふうに思います。それから、「学びフェスタ」が、この土曜日にあり、眞野委員もお越しいただきありがとうございました。今年はジーベックホールの大ホールが改装中ということで、各学校の発表というのも今までどおりという形ではなかったのですが、主体的な学びというところに焦点化することで、いいフェスティバルになったかなというふうに思っています。地域おこし協力隊で府中市に来ていただいている元なでしこジャパンの山根恵里奈さんの講演をいただく機会を得て、山根さんには、この講演に先立って各学校を回って、いろいろ広報活動もしていただきました。また、初めて、ALTがいっぱい集まってブースを開くという活動をやりました、ALTがいろんな材料をつくったりして、魚釣りですとかペイントとか、あと子どもを集めて劇をしたりダンスしたりということで、非常に大盛況であったというところです。県からも、小さい子の遊びの場の提供をいただいたり、企業ブースも例年どおりの形ではありますが非常に盛況でございました。

そういった中で無事終わりましたので、また来年に向けても今年の課題を踏まえながら、早めに早めに動いていきたいなというふうに思っております。また委員の皆様にも、ぜひ引き続き御協力をいただければと、よろしく願いいたします。

では、部長のほうから何かありますか。宮田部長。

宮田部長 今度は画面を見ていただきながら、少し上下の再配置について、そういうことを目指してこれから進めていくのですが、これからは上下中学校区学校再配置というところで、義務教育学校までを見通して、この推進委員会を進めていただきたいというふうに考えております。

設立目的等は、そこに書いてありますとおりです。推進委員の構成等も20名というところで進めていっているところです。

これまで、この2つの小学校を1つにという強い保護者の願いがありました。そのとき学校をどちらにするとか、施設名をどうしていくのかというふうに、そういった環境が大きな話題の中心だったということです。

学識経験者として京都産業大学の西川信廣名誉教授に、義務教育学校

になるまでのアドバイザーとして入っていただくことを了解していただきました。西川先生は、小中一貫、コミュニティ・スクール教育制度学が専門の先生で、これまで中央教育審議会、文部科学省委員も務められてという、そういった方です。府中市の教育にも関わっていただいて10年を超えているというところで、義務教育学校にするといったときにも背中を押していただいた研究者であります。この先生に上下校区にも入っていただいたところもあるのですが、上下の実態をしっかりと分かっていただいて、特に歴史のあるこの上下のまちで義務教育学校をつくるというところに力を貸していただけることで、ほんとに力強い方になっていただいております。

最初の第1回目を来月11月21日に開くわけですが、まず推進委員の皆さんとともに勉強していこうと思っています。何のためにやるのか。この再配置や義務教育学校の道のりを経て、どんなものをつくっていききたいとか、期待することというのは何なのか。その中でこれから新しくつくろうとする小学校、どんな学校にしたいのかといったところをしっかりと意見を出し合って、頭をしっかりと合わせて、意識を共有するというふうな、そんな場にしていききたいなというふうに思っています。

その後、それぞれの担当に分かれて、こんな学校にしていききたいというふうな共通の目的を持った上で、それぞれの役割分担でこのプロジェクトを進めていききたいなというふうに思っております。それぞれの役割等は、これから皆さんにお伝えしていくところではあるのですが、これをぜひ11月21日、金曜日に、上下町民会館のほうで第1回の推進委員会が開催されますので、ここでどんな状況であったかというふうなのをまた報告もさせていただきたいですし、こういった内容をしっかりと情報発信をしていくということも考えております。こんな意見が出されたよということもしっかりと発信していく予定にしておりますので、先ほども情報発信が足りないのではないかと、まさにそのとおりです。今やっていることを、ほんとにタイムリーにお伝えしていく、そんな推進委員会をつくっていこうと思いますので、引き続きよろしく申し上げます。

以上です。

教育長

では続いて、教育政策課のほうから、お願いします。

和田課長

それでは私のほうから1つ、学びフェスタの報告になりますけれども、先週の土曜日の10月25日、10時から第15回の学びフェスタを

開催しております。延べで約1,350人の来場者をお迎えして、にぎやかに新しい学びフェスタになっているという状況でございます。そして、今後もまたアンケート等を取らせていただいて、今回の学びフェスタがどうだったのか、今後どのようにしていけるのか、そういったいろんな声を聞かせていただきながら実行委員会を開きまして、様々な取組の中で主体的に皆様からいろんなものが出てきてにぎわす学びフェスタを目指して取組を進めていきたいというふうに考えておりますので、また報告等をさせていただければと思います。

私のほうからは以上でございます。

教育長

道田室長。

道田室長

文化財室からは、2件の報告をさせていただきたいと思います。

1つ目は、皆様に配信されています、資料2「2025秋の資料館フェスタ」のチラシを御覧ください。毎年資料館フェスタは年に2回、歴史民俗資料館において開催するものでございます。今回の秋については来月11月15日の土曜日、午前の10時から午後の15時までというところで開催をします。内容につきましては、そのチラシの中に書いてありますけれども、今回は先日行われた第15回の学びフェスタの関連イベントとして銘打って、資料館フェスタを展開しております。といいますのも、学びフェスタの中でも体験ブースの中で「国府いろどり体験」ということで、この資料館フェスタに来てくださいねということで宣伝をさせていただいており、特典として、ガチャの無料券を学びフェスタ代表者の方々には配ったりして、資料館フェスタに少しでも来て楽しんでいただけるようなことを取組としてさせていただきました。

今回の目玉の一つとして「資料館探検」という左下のものになりますけれども、東京の国立科学博物館等で展示されていた、山ノ神古墳の女性の人骨の頭骨が、この11月15日、土曜日の直前の11月13日に帰ってくるということで、凱旋という少し変ですが、現在はその男性人骨のほうを展示していますので、久しぶりにお帰りなさいみたいな話で、来場者の方々にもそれを展示して、満足いただければいいなというものでございます。よろしく願いいたします。

もう一つです。資料3ですけども、南宮神社のクラウドファンディングについてでございます。このたび、令和7年10月27日から令和8年1月24日までの3か月間というところで、クラウドファンディング型のふるさと納税を府中市として展開していくものでござい

す。今日段階でちょっとサイトを見たら、目標金額2,000万に対して0.4%、9万円が積み上がっております。今からのことなので、これから派手に宣伝をしていくということですが、11月5日の日ですけれども、現地でプレスリリースをさせていただいて説明会を開きます。我々も育委員会も出ていくのですけれども、地元の所有者さんとか総代会の人、それから地域の代表の方も来ていただいて、テレビ等取材をしていただいて情報を発信していくということをしていこうと思っています。

状況を申しますと、実は修理額の総事業費が4,600万ぐらいかかるのですけれども、南宮神社の金撞堂を修理するのに、地元としては修理工事委員会を総代会さんと地元の町内会さんが立ち上げて、地域だけでお金を募って、今2,300万円が積み上がっている状況。そこもなかなかの限界点に達しているところの中で、府中市としても、その地域の皆さんと協力して、この今御紹介したガバメントクラウドファンディングと、もう既にスタートしているのですけれども、寄附金を文化財の保存継承の選択というところで展開している。ふるさと納税。それから今後は、トップセールスとして市長さんにも御動座いただいて、企業版のふるさと納税も展開してさらに財源確保に取り組んでいこうというところでございます。御承知おきください。以上でございます。

教育長

続いて、学校教育課、津田課長。

津田課長

まず、令和7年度のALTの配置についてです新しく5名のALTが来ておりますので紹介をさせていただきます。

まず、国府小学校のマデリン、そして、旭小のペイジー、そしてラファエルが上下北小学校。そして上下中学校のガブリエラ、府中学園のハンプトンということで5名のALTが、この8月に来日して、各学校に勤めている状況となっております。

ALTが府中のことをいいまちだと言ってくれながらやっておりますので、生活のことであつたり、授業で困っていること、日本生活のことは、教育委員会の事務局のほうでフォローしながら、ALTが日本での生活をスタートしている状況になっておりますので、お知りおきください。

続いて、学校の情報等について、「令和7年度生徒指導上の諸課題について」を御覧ください。

9月末現在の数値になりますが、暴力行為が22件、いじめ認知件数

が12件、そして不登校児童生徒数が62名ということとなっております。前年度比と下の表を見ていただくと、暴力行為が昨年度9月末は10件だったのが22件ということですが、これは特別な支援が必要な子どもが複数回暴力行為を行っているということで件数が増えています。不登校児童生徒数は、昨年度は9月末現在48名が、今年度は62名ということで、喫緊の課題と捉えております。

続いて、資料6のほうを御覧ください。

府中市「CSフォーラム2025」ということで、先ほど府中市として小中一貫教育とコミュニティ・スクールの充実を図っていくところの、CSフォーラムを11月14日、14時から国府小学校で実施いたします。講師には、全国のコミュニティ・スクールの立ち上げに携わってくださった貝ノ瀬さんという方をお招きして、何のためにコミュニティ・スクールをしたのかであったり、これからコミュニティ・スクールに期待することについて話をさせていただきますので、ぜひこちらのほうも、よろしければ来ていただけたらと思います。

学校教育課からは、以上になります。

教育長 今、様々説明をさせていただきましたけども、何か質問ですとか御意見ですとかございましたら、お願いいたします。

よろしいですか。

はい。ありがとうございました。

それでは、連絡事項について、事務局のほうからお願いします。

児玉係長 次回は、11月19日、水曜日、午後1時からを予定しております。

そして12月は、12月23日、火曜日、午後1時半、こちらも同じ会議室で開催を予定しております。よろしく申し上げます。

以上です。

教育長 続いて、非公開案件に入ります。